



仙台塩釜港復興だより 第6号 — 港湾は人の心も結んでいます —

国際コンテナ 北米直航再開！

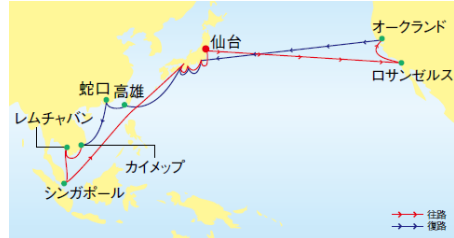
震災の影響により休止されていた北米西岸向け国際コンテナ定期航路が、1月22日仙台塩釜港への寄港を再開しました。震災前と同様に週1回日曜日、高砂2号岸壁に接岸します。

この航路は日本国内では仙台塩釜港に寄港した後、ノンストップでロサンゼルスに回ります。ロサンゼルス→オークランド→日本国内他港→東南アジア→日本国内他港に寄港してから仙台塩釜港に寄港します。したがって、この航路は北米向け輸出のほか東南アジアからの輸入にも活用できます。

寄港再開初日の1月22日当日は、高砂2号ふ頭において再開第1船「NYK アーガス」号を迎え、国土交通省港湾局加藤大臣官房審議官や本県選出国會議員などの皆様にご出席いただき、盛大な歓迎セレモニーが行われました。

北米向け輸出貨物の荷主企業にとっては、この航路の寄港再開は輸出先までの所要時間短縮や物流コスト削減にもつながるものです。復興だより第4号で紹介した45フィートコンテナによる自動車用タイヤの北米向け輸出でも早速活用されていますが、今後さらなる利用者の増加も期待されます。多数の報道陣が詰めかけたことから、地域経済の振興にとって期待や注目が大きいことが伺えます。

なお、国際貿易港としての機能回復には、岸壁や荷役設備の復旧や航路の再開だけでなく、物流の回復も必要不可欠です。今後の物流において、迅速な通関に欠かせない「横浜税関仙台コンテナ検査センター」についても早期の復旧が望まれます。



●北米西岸/東南アジア定期航路図



●NYK ARGUS 号



●コンテナ積み卸しの様子



●被災した仙台コンテナ検査センター

45フィートコンテナ 輸入開始

建築資材を積んだ45フィートコンテナが1月11日、カナダから京浜港経由で仙台塩釜港に輸入され、若林区の倉庫まで運ばれました。昨年3月に宮城県が45フィートコンテナの公道輸送が可能になる構造改革特区として認定されて以降、9月の日本国内初の輸出に続いて輸入でも国内初です。従来の40フィートハイキューブコンテナに比べて、長さが1.5m長くなったことで容積が約13%増となり、比較的軽くてかさばる貨物の輸送効率向上が見込まれています。

今回輸入を行ったセルコホーム株式会社は、今後も45フィートコンテナの取扱いを増やし、輸送コストの削減を図りたいと話しており、45フィートコンテナが地元企業の活性化に繋がることを期待されます。

仙台塩釜港の全岸壁が使用可能に！

1月13日に、大型コンテナ船に対応する高砂2号ふ頭が一部供用開始されました。これにより、仙台塩釜港の全ての公共ふ頭で船舶の発着や荷役作業ができるようになりました。

高砂2号ふ頭は長さ330mの-14.0m岸壁を備えていましたが、そのうち270mが使用可能になり、さらに残る60m分やガントリークレーン3号機などの設備についても復旧を進めています。

また、仙台港区で多種多様な貨物を取り扱う中野1号～4号ふ頭岸壁の本格復旧工事が国により行われており、年明から新たに中野6号ふ頭岸壁の復旧工事にも着手しております。

各ふ頭の復旧工事は、船舶の発着や荷役作業と並行して実施しています。また、残る中野5号ふ頭、高松ふ頭、雷神1号～2号ふ頭、向洋ふ頭についても順次復旧工事が行われていく予定です。

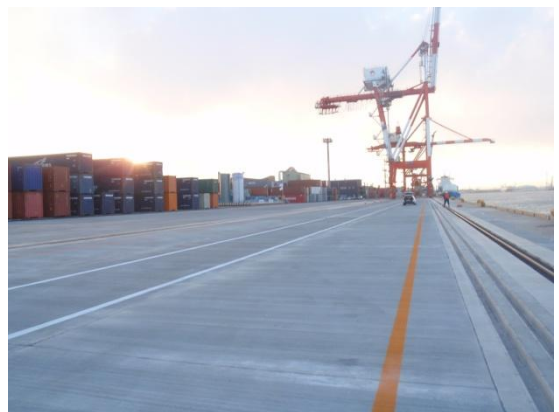
工事が終了するまでの間、港湾利用者の皆様にはいろいろご不便をおかけすることになりますが、ご理解及びご協力をお願いします。



●40ft コンテナと45ft コンテナの比較



●公道輸送の様子



●復旧した高砂2号ふ頭



●復旧した中野1号ふ頭

ガントリークレーン4号機 復旧

9月のガントリークレーン2号機、12月の1号機の復旧に続き、1月13日にガントリークレーン4号機が復旧しました。

4号機は仙台塩釜港で最大の40.5トン吊りのガントリークレーンです。これによって、高砂コンテナターミナルの処理能力の向上が図られます。残る3号機は3月末に復旧予定となっています。

火力発電所の営業運転再開

東日本大震災で甚大な被害を受けた東北電力新仙台火力発電所1号機の試運転が12月11日に開始され、12月27日には営業運転が再開されました。被災した東北電力の火力発電所が営業運転を再開したのは初めてです。塩釜港区の臨港地区にある七ヶ浜町の仙台火力発電所4号機も12月20日に試運転が開始され、平成24年2月上旬の営業運転再開を目指して復旧を進めています。

電気は日常生活や経済活動に欠かせない重要なエネルギー源です。本県内を含む東北電力管内は冬期も夏期と並ぶ電力需要のピーク時期です。依然として電力需給の逼迫(ひっばく)がテレビなどを通して伝えられる中で、被災した発電所の運転再開は港湾のみならず地域全体の復興へ貴重な前進となります。

みなとの交通安全、着々と前進へ

被災により使えなくなっていた信号機や道路標識が次々と復旧しています。塩釜港区のマリンゲート前など、被災前に信号機があった箇所では被災前と同様に信号機が使えるようになり、交差点の安全性が回復してきました。

なお、道路側溝の蓋が外れている場所など危険な箇所もまだ数多く残っています。順次、復旧工事に取りかかりますが、完了まではまだ時間がかかりますので、通行にあたっては引き続きご注意願います。



●稼働したガントリークレーン4号機



●新仙台火力発電所(東北電力株式会社提供)



●蓋の外れた側溝

優秀賞（国土交通事務次官賞）受賞！



『港のある風景』村井杜王さん（白石市立福岡小学校5年）

講評： 青い空，浮かぶ雲，港湾にある建物は，海に影を反射させています。見ていて思わず引き込まれてしまう静けさでした。

平成23年度国土と交通に関する図画コンクールにおいて，福岡小学校5年村井杜王さんの作品が優秀賞（国土交通事務次官賞）を受賞しました。フェリーふ頭から見た中野南地区・高砂ふ頭が描かれており，講評にもあるとおり，仙台港の景色が見事に表現されています。明日の日本を担う子どもたちのためにも，一日も早い港の復旧・復興を推進していきます。

編集事務局

宮城県仙台塩釜港湾事務所
〒983-0001
仙台市宮城野区港三丁目1-3
アクセル5階
TEL:022-254-3132(港政班直通)
FAX:022-254-3136
E-mail: sdsgkowns@pref.miyagi.jp

